

教育心理コース学習会実践報告

— 就業動機に与えた影響 —

Psycho-educational Program for Students in Teacher Training Course

— Impact on motivation to work —

次世代教育学部教育経営学科

赤松久美子

AKAMATSU, Kumiko

Department of Management for Education

Faculty of Education for Future Generations

次世代教育学部教育経営学科

浅田栄里子

ASADA, Eriko

Department of Management for Education

Faculty of Education for Future Generations

次世代教育学部教育経営学科

高橋 直樹

TAKAHASHI, Naoki

Department of Management for Education

Faculty of Education for Future Generations

要旨： 本学次世代教育学部教育経営学科教育心理コースは、心理学教育を通じて児童生徒に寄り添う教員を育成している。本稿は、教育心理コースの学習会での取り組みを報告し、その成果と課題について考察した。今年度は、小学校・中学校・高等学校、児童相談所などの現場で活躍中の講師を招き、諸機関と連携できる教師の育成に資することをめざした。対象者は、教職課程で心理学の領域についての学びを深めようとしている学生18名である。実施前後での質問紙調査の結果、就業動機の探索志向・対人志向・挑戦志向について、実施前よりも実施後の得点が有意に高かった。また、専門的福祉機関である児童相談所の職務や児童虐待への知識を深めることもできた。

キーワード： 教育現場に役立つ心理支援、関係機関との連携、就業動機、つながる力

I. はじめに

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説（2017）では、「主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること」と謳われており、「ガイダンス・カウンセリング」による支援が明示されている。教職課程における心理学教育の意義として、小澤（2018）は「心理学に強い教師の育成にその一端がある」と述べており、教員養成においては、実践的指導力やコミュニケーションスキル、チームで対応する力、諸機関と連携する姿勢などを涵養することが求められている。

前述の中学校学習指導要領解説（2017）では、「カ

ウンセリングの実施に当たっては、個々の生徒の多様な実態や一人一人が抱える課題やその背景を把握すること、早期発見・早期対応に留意すること、スクールカウンセラー等の活用や関係機関等との連携などに配慮することが必要である。」と続けている。

教育心理コースは、子どもの心理的ケアの専門的知識・技能を身に付けられる体験活動を重視したプログラムのもとで学習を進めている。今年度は「つながる力」をテーマに、小学校・中学校・高等学校、児童相談所などの現場で活躍中の講師を招き、諸機関と連携できる教師の育成に資することをめざした。諸機関の講師として、今回は児童相談所の職員を招致した。

生徒指導提要（2010）にも、学校の虐待対応として、「1 虐待の基本的知識の確保 2 児童虐待の支援の意味 3 児童虐待を見つける（見極め） 4 通告と

連携による継続的支援」が挙げられており、教員の育成において、児童相談所の職務や虐待への理解は欠かせない。

II. 研究の目的

教育心理コースでは「子どもの心の問題に対応できる教員、他の教員・関連機関と連携できる教員、学習心理支援カウンセラー（教職入門）資格取得」をめざして、さまざまなプログラムを実施している。本稿では、その一環として2021年9月に実施された学習会での取り組みを紹介する。この学習会において、教職へのモチベーションがより高まることを期待しており、就業動機にポジティブな影響を与えたかについて検証していく。今回の報告では、諸機関との連携の中でも、児童相談所への理解を中心に据えた。

III. 実践内容

1. 学習内容についての概略

実施時期：9月8日（水）～9月10日（金）

学習①「学校教育に生かすアドラー心理学」

（講師：岡山県立岡山御津高等学校 矢原孝則先生）

（1）アドラー心理学のカギ～理論について学び、体験する～ 1）共同体感覚と勇気づけ 2）目的論 3）認知論 4）主体論＝自己決定性

（2）アドラー心理学を学級経営に

学習②「ポジティブな行動支援（PBIS）－倉敷モデル－」

（講師：倉敷市立西倉敷中学校校長 松本一郎先生）

（1）倉敷モデルで笑顔あふれる学校に 1）GB（グッドビヘイビア）チケットの活用 2）応用行動分析による機能的分析 3）PBISと解決志向 4）かくれたカリキュラム

学習③「風景構成法への理解」

（講師：本学教育経営学科 高橋直樹先生）

実際に風景構成法の描画を体験し、アセスメントの仕方について教示を受ける。

学習④「レジリエンス・ワーク（強みを知ろう!）」

（講師：本学教育経営学科 赤松久美子先生）

各々の「強み」の確認と活用法について考える。

学習⑤「グループエンカウンター」「ストレスマネジメント」（本学教育経営学科 浅田榮里子先生）

（1）グループエンカウンター チーム作りを目的

として、他者理解・自己理解を進めるためのエクササイズを体験する。

（2）ストレスマネジメント ストレス理論を学習し、その対処法を体験する。

学習⑥「子ども相談センターの職務について」

（講師：倉敷市子ども相談センター 赤木紀公子先生）

（1）児童虐待について 1）種類 2）要因 3）定義 4）法律

（2）児童虐待が子どもに及ぼす影響

（3）倉敷市における児童虐待への対応

（4）見守りについて

（5）より良い支援をめざして

学習⑦「スクールカウンセラーとしての活動より～他者理解～教え育む」

（岡山県スクールカウンセラー 飯田秀男先生）

（1）カウンセリング紙上トレーニング

（2）事例より

IV. 研究の方法

1. 調査時期および分析対象

2021年9月8日の夏期集中学習会開始直後に第1回目（実施前）の調査を、2021年9月10日の夏期集中学習会終了直後に第2回目（実施後）の調査を行った。第1回目の調査の回答者は22名、第2回目の調査の回答者は19名であり、両方とも回答した18名の回答のみを分析対象とした。

測定項目

①就業動機尺度（安達，1998）：「探索志向」，「対人志向」，「上位志向」，「挑戦志向」の4因子からなる（Appendix 1）。安達（1998）の分析結果をもとに、因子負荷量の高い順に5項目ずつ採用し、20項目で構成した。回答はリッカート法（1 あてはまらない～5 当てはまる）であり、加算平均値を算出して得点化した。

②一般性セルフ・エフィカシー尺度（坂野・東條，1986）：1因子16項目からなる。回答は2択（はい・いいえ）であり、「はい」を1点、「いいえ」を0点として、その合計を算出した。

③その他、自由記述形式の質問項目を設定した。第1回目（実施前）の調査・第2回目（実施後）の調査ともに、「教育心理学とは、どのような学問だと思いますか？」「あなたが、今後、大学や社会で生活していく上で、教育心理学は、どのような点で役に立つと思いますか？」「あなたは、大学卒業後、ど

のような社会人になりたいですか?」と教示した。

V. 質問紙調査による測定と分析

就業動機尺度の加算平均値およびセルフ・エフィカシー尺度の加算平均値について、実施前と実施後の平均値、標準偏差および t 検定結果を Table 1 に示す。検定の結果、就業動機の探索志向 ($t = 3.34, df = 17, p < .01$), 対人志向 ($t = 2.87, df = 17, p < .05$), 挑戦志向 ($t = 2.51, df = 17, p < .05$) について、実施前よりも実施後の得点が有意に高かった。

分析対象者全員の自由記述を Table 2 および Table 3 に示す。

今回、現場で活躍中の講師を招いた学習会であったので、自由記述文においても、「現場」をキーワードとしている回答が見られた。

「教育心理学とは、どのような学問だと思うか」という質問について、「心理学の学びを教育現場でどのように生かすのか、また、教育現場での問題を、心理学を使ってどのように解決できるかを考える学問」「子どもに限らず、さまざまな分野の人と教育現場で良好な関係性をつくる上で学ぶべき学問」との回答があり、教育現場での他機関との連携にとって必要な学問であると位置づけている。また、「どのような社会人になりたいか」という質問に対しては、「子どもの変化にいち早く気づき、何か問題を抱えているならその問題を解決へと導くためにカウンセラーや児童相談所、管理職、同僚などのつながりを必要に応じて活用し子どもに寄り添える教師になりたい。子どもたちが笑顔で毎日を過ごすことができるように力を尽くしていきたい。」との回答があり、関係機関との連携を視野に入れた教職への前向きな思いが表現されていた。

Table 1 実施前後の得点の比較

	実施前		実施後		$t(df=17)$	Cohen's d
	M	SD	M	SD		
就業動機						
探索志向	24.17	1.20	24.72	0.67	3.34**	0.59
対人志向	21.00	3.09	22.11	3.45	2.87*	0.35
上位志向	15.78	3.17	16.89	3.77	1.76†	0.33
挑戦志向	18.33	4.00	20.28	3.43	2.51*	0.54
セルフ・エフィカシー	8.22	2.58	9.11	2.27	2.08†	0.38

** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$

Table 2 実施前の自由記述文への回答

<p>【教育心理学とは、どのような学問だと思いますか?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これからの教育界に必要な不可欠な学問。● 教育する場で、心理的な面でサポートするために必要なことを学ぶ。 ● 現場で起こる様々な問題について考える学問。● 子どもや教育に関する心理や物事を学ぶ学問。 ● 教職で使う心理学。● 教えるための心理学。● 教育について心理的な視点から考える学問。 ● 教育上の問題に対して心理学の面からアプローチし、解決策を見出す学問。● 教育における心理学。 ● 教育する上で児童生徒の心までも教育できるようにする。また、心理学を用いて教育できるようにする学問。 ● 教育する人、される人の心理を学ぶ学問。● 児童の心理を学ぶもの。
<p>【あなたが、今後、大学や社会で生活していく上で、教育心理学は、どのような点で役に立つと思いますか?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人の成長を促進させるところ。● 相手や周りのことを意識して行動することができる。● 児童理解や他者理解。 ● 例えばレジリエンスでいえば、自分自身のレジリエンスはもとより、その知識や方法を他人と共有したり、実践したりすることで役に立つと思う。不安や怒りなどを上手くコントロールして、無駄なストレスを軽減し、しなやかに人生を生きる点においても十分役に立つと思う。 ● 大学では、人との付き合い方や関係の中で客観的に分析する力をつけるという意味で役立てていきたいと考えている。社会では、教師として働きたいと考えているので子どもたちへの対応を考えると役に立てたいと考えている。 ● コミュニケーションをとるとき。悩みや物事について話すのを聞くとき。自分自身のメンタルヘルス。自分と向き合うとき。誰かに何かを伝えるとき。● 誰かに何かを教える場合や、自分や相手を考えさせる場面で役に立つと思う。 ● 色んな人と関わっていく中で、相手の気持ちを考えながら、言葉を選びながら伝える点。 ● どのような学級づくりをしたら良いか、どのように各生徒と接していくかというところに繋がると思う。 ● 悩みや不安がある子達に寄り添い、少しでもその悩みを軽くさせてあげることができるようになる。 ● 何か問題が起こった時にその問題を解決する時の考え方に役立つと思う。● 人との人間関係を築く時。

- 教えるときや話すとき。● 相手を理解するとき。● 教育相談。● コミュニケーション。
- 人とのコミュニケーションの中で相手の心理を読み取ったり、生徒の気持ちを読み取ったりする点。
- 相手の気持ちを考える上での手がかりになると思う。
- 子どもと関わるときに、子供のことをより理解してあげようと思えると思う。

【あなたは、大学卒業後、どのような社会人になりたいですか？】

- 今この瞬間を幸せだと思える社会人。● 生徒に寄り添える教員。● みんなから信頼されて、授業が楽しい先生。
- 主に子どもたちを相手にする職業に就きたいと考えている。学校などの集団が苦手な子どもたちが、のびのびと勉強ができる時間と場をつくる教育者、また子どもたちの不安や悩みを聞き、抱え込んでしまわないようにケアできる人になりたい。
- 私は、子どもたちに寄り添うことができる教師になりたいと考えている。子どもと同じ目線から成長をサポートし、成長を子どもが感じたときには一緒に喜び、子どもが悩んでいるときや困っているときには助言をする横で一緒に歩いているような関係性を子どもたちと作っていきたい。また、大人との付き合い方も助け合いができる環境やお互いを尊重し発言できる対人関係を作っていけるように心がけたい。
- 誰もが、のびのびと自分らしく生きていくことのできる空間を作りたい。● 生徒のお手本となれる先生。
- 児童生徒、保護者の方々、地域の方々、教職員から笑顔で話しかけられる先生。● 優しい先生になりたい。
- 生徒のことを一番に考えて行動できる先生。● 悩んでいる子を1人でも多く救えるような先生になりたい。
- 子どもたち1人1人を大切にしていける先生。● 子どもたちからも保護者からも信頼してもらえる先生。
- 私は、児童から信頼される先生になりたい。● 子どもや保護者に信頼され、寄り添える先生。
- 生徒を公平に扱えるような教員になりたい。また、生徒にも親にも信頼される教員になりたい。
- 生徒の話をきちんと聞ける先生。● 人のお手本になるような人。● どんなことも率先して行動できる人。
- 生徒がなんの躊躇もなく、質問してくれたり話しかけてくれる話しやすい先生。また、授業が楽しいと思わせられる先生。
- 小学校の先生。● 信頼される人。● 生徒のことを一番に考えることのできる先生。

Table 3 実施後の自由記述文への回答

【教育心理学とは、どのような学問だと思いますか？】

- だれもが自分らしくあるために必要な知識を蓄える場所。
- 人を救う学問、人間が人間に対して心を通わせる学問。
- 教育現場に必要な知識の一部。
- 教育心理学は、子どもたちの心の状況を客観的に考えることで子どもたちが抱える問題を心理学的に考えていく学問であると考える。
- 教育をする者と受ける者をつなぐ大切な心理学。
- 心理学の学びを教育現場でどのように生かすのか、また、教育現場での問題を、心理学を使ってどのように解決できるかを考える学問。
- 知識を身につける。
- 誰かの支えになる、もしくは自分で自分を支えるためにある学問。
- 教師になり精神的な面からも子供たちをサポートできるようになるための学問。
- 現場で起こる様々な問題についてたくさんの視点から考える学問。
- 子どもに限らず、さまざまな分野の人と教育現場で良好な関係性をつくる上で学ぶべき学問。
- 人を支えるための学問。
- 教育過程の現象を心理的に考え、効果的な教育が行えるための方法を見つけだすことを目的とした学問。
- 教育したり、されたりする過程において問題などが発生した場合に心理学の面からアプローチをする学問。
- 教育者として児童生徒や保護者の方と接する際に必要になってくる学問。
- 誰かに悩みや不安を言えなかったり困っていたりする人に対して、勇気づけたり、その人の言葉の裏の意味を探りながら支えることが出来る知識のこと。
- 教育する人とされる側の心理を学ぶ学問。
- 教員として働くときに、知っている生徒とのやりとりや関係づくりを円滑に進めることができるもの。

【あなたが、今後、大学や社会で生活していく上で、教育心理学は、どのような点で役に立つと思いますか？】

- 不登校やいじめ等児童に関わるなかで役に立つと思う。
- これから先も、人に対して人が対応できる数少ない仕事だと思います。そこで役に立つ仕事だと思います。
- 私が大学や社会で生活していくうえで教育心理学は人を知ることや支える面で役に立つと考える。相談を受けるときや問題を解決する糸口を見つめる力を培うことができると思う。
- 様々な分野で困難を抱えている子どもを救うことに役立つ。
- 人とのコミュニケーション、自分をどのように表現するか、人にどのように伝えるかという点。

- 障がい者の方への接し方や、少しでも知識を身につけておくことで、考え方も変わる
- どんな仕事についても人と関わる時に役立つし、自分自身の気持ちをコントロールするときに役立つ。
- 悩んでいる人に対しての関わり方が変わってくる。● 自分が「辛い、苦しい」と言えるようになること。
- 子供たちの小さな変化にいち早く気づき、悩みを解決し、一緒に成長していくこと。
- 悩みを抱えた子どもの相談に乗ったりするときなどに役立つと思う。
- 友達や先輩と関わる時。● 人間関係。● 人と関わる時。● 悩み相談。● 人と接するとき。
- 身の回りで起きている現象などを、心理的に考えてよりよい解決法を見つけだしたりするのに役立つと思います。
- 教員になってから困っている生徒の相談に乗るときに役に立つと思います。
- いじめや、体罰や虐待に対して役立つと思った。また、小さな問題に対しても役立つものだと知った。
- 教師として仕事をする場面で役に立つと思います。
- 子どもと関わるときにこのことをきちんと理解してあげようと思うことができると思う。

【あなたは、大学卒業後、どのような社会人になりたいですか？】

- 児童一人一人が胸を張って自分らしくいれるようにできる先生。● 子どもをよく知って、見ることができる人。
- 私は、子どもの変化にいち早く気づき、何か問題を抱えているならその問題を解決へと導くためにカウンセラーや児童相談所、管理職、同僚などのつながりを必要に応じて活用し子どもに寄り添える教師になりたい。子どもたちが笑顔で毎日を過ごすことができるように力を尽くしていきたい。
- 困っている子どもと一緒に、困難を乗り越える努力のできる人。● 生徒が話をしやすく寄り添える教員。
- いろんな人、機関と関わりを持つ先生。子どもたちだけではなく、保護者の方々、地域の方々、教職員の方々、さまざまな機関の方々とコミュニケーションを通して、物事をいろんな視点から見ることができるようになりたい。また、人を笑顔にしたい。
- みんなから頼られる先生、生徒のことを一番に考えられる先生。● 悩んでいる人を救えるような人。
- 子供たちの小さな変化にすぐに気づける教員。● 生徒と向き合い、生徒のことをよく知る教員。
- この先生に出会えてよかったと思ってもらえる教員。● 子供から信頼される先生になりたい。
- 明るくてポジティブで話していると子供たちの顔に自然と笑顔がこぼれてくる教員。
- 子ども達に信頼され、この先生に出会えてよかったと思ってもらえる教師。● 児童を支えてあげられる先生。
- 子供の行動だけでなく、その行動の意味までを考えられる先生になりたいです。また、子供にあった正しい対応を工夫してできる先生になりたいです。
- 生徒のことを多面的に見ることができる教師。● 頼りにされる人。● 尊敬される人。● 何事にも恐れずに挑戦する人。
- 児童生徒がなんの躊躇もなく気軽に出来事を教えてくれるなどちょっとした悩みを聞いて欲しいと思われるような教師になりたい。
- 人から信頼される小学校の先生になりたいと思います。● 困っている生徒がいたらこの子に寄り添ってあげられる教員。

VI. 考察と今後の課題

質問紙調査の結果、学習会実施前よりも実施後の方が、職業への関心や積極的職業探索を示す「探索志向」の項目やチームワークを重視する「対人志向」の項目に対する得点が有意に高かった。教職への関心がより深まり、連携の重要性を感じたのではないだろうか。

今回は、講師に児童相談所の職員を招致した。文部科学省（2006）は、「児童虐待防止法のねらいは、『虐待の早期発見』である。早期に児童や保護者のケアを行えば、深刻な虐待事象から子どもは救われる。児童虐待防止法上、学校は虐待の疑いがあれば通告することが義務付けられている。虐待かどうかを判断するのは学校ではなく通告を受けた方である。校内で協議し、組織としてためらうことなく通告を行うことを学校のスタンスとして常に持ち続ける体制が望まれる。」

としている。また、柏木・岩永（2016）は「さまざまな子どもの問題対応において、専門的福祉機関の中で中心的な役割を果たしているのは児童相談所」としながらも、全国の児童相談所を対象とした調査の分析結果を踏まえて、「子どもの問題を発見し対応する上で学校が中心的な役割を担っており、児童相談所と学校は、基本的な信頼関係を構築しているものの、理解の深まっていない関係性にある」と指摘している。課題は、「児童相談所の具体的な役割や相談、支援機能に対する教員の知識不足」にもあるとしている。鈴木（2012）は、教育と福祉の間には児童虐待対応に関する認識にズレが生じているとし、児童福祉の機関がさらなる理解を求め、各機関の役割を前向きに検討しあうことの大切さを述べている。

今回の実践においては、受講した学生の教職への意欲や自己遂行可能感の向上に資するところがあったと考えられるが、今後も、諸機関との連携が図れる教員

の育成を目指したプログラムを工夫していきたい。

引用文献

- 安達智子 (1998). 大学生の就業動機測定を試み 実験社会心理学研究, 38, 172-182.
- 蓮尾直美・鈴木聡・山川将吾 (2012). 学校組織における被虐待児の発見・対応と社会化をめぐる教師役割の再規定 (1) - 学校・児童相談所・児童福祉施設による連携の実際を手がかりに - 三重大学教育学部研究紀要, 63, 教育科学, 359-369.
- 坂野雄二・東條光彦 (1986). 一般性セルフ・エフィカシー尺度の作成の試み 行動療法研究, 12, 73-82.
- 柏木智子・岩永定 (2016). 問題を抱える子どもへの

- 福祉と教育の連携実態と課題 - 児童相談所と学校の連携を中心に - 国際研究論叢, 29 (2), 107-122.
- 文部科学省 (2006). 学校等における児童虐待防止に向けた取組について (報告書)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06060513/001/018.htm (2021.12.4 閲覧)
- 文部科学省 (2010). 学校の虐待対応『生徒指導提要』, 教育図書, 184.
- 文部科学省 (2018). 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総則編』, 東山書房, 95-97.
- 小澤貴史 (2018). 教職課程における心理学教育の意義について ~ 「教育・発達心理学」を中心に ~ 拓殖大学教職課程年報, 1, 103-115.

Appendix 1 就業動機尺度の質問項目例 (安達, 1998)

【探索的志向】

- 将来就こうと考えている職業に関する情報には興味がある。● 将来就きたい職業のために努力しようと思う。

【対人志向】

- 周囲の人々とコミュニケーションしながら仕事をすすめたい。● 仕事を通じて色々な人に出会いたい。

【上位志向】

- 地位や名誉をもたらす職業に就きたい。● 職場では高い役職に就きたい。

【挑戦志向】

- 世間で非常に難しいとされている仕事をやり遂げたい。● 努力や能力を必要とする仕事がしたい。

Appendix 2 一般性セルフ・エフィカシー尺度の質問項目例 (坂野・東条, 1986)

- どんなことでも積極的にこなすほうである。● 世の中に貢献できる力があると思う。